

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

コーミ株式会社におけるボイラ更新による  
省エネ事業

排出削減事業者名：コーミ株式会社

排出削減事業共同実施者名：一般社団法人 循環資源再生利用ネットワーク

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	コーミ株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	コーミ株式会社
住所	愛知県犬山市大字羽黒新田上平塚 1-5
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	一般社団法人 循環資源再生利用ネットワーク
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

コーミ株式会社犬山工場における貫流ボイラの更新と A 重油から都市ガスへの燃料転換による省エネ事業。

### 2.2 排出削減事業の目的

本事業は、事業所内のボイラの更新と燃料転換を行い、省エネを図るものである。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油焚き水管ボイラを都市ガス焚き貫流ボイラに更新し、燃料転換を行い、CO<sub>2</sub> の排出を削減する。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

- ・担当者を変更

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2008年5月1日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2016年4月30日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位

※ 活動量は採用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

工場内の製造工程に供給する蒸気熱源施設（ボイラ設備）と蒸気を使用する機器、及びボイラへの燃料供給設備を本事業の範囲とする。

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
Ffuel.pj	事業実施後、燃料使用量	N m <sup>3</sup>	543,306.3	・計測器で使用量を計測し、担当者が毎日管理日報に記録する。記録した計測値を標準状態に換算し集計する。	無し
HVfuel.pj	事業実施後、燃料の単位発熱量	GJ/N m <sup>3</sup>	0.0440 (2013年度) 0.0464 (2014年度以降)	・デフォルト値を利用	無し
ε pj	事業実施後、ボイラ効率	%	86.40	・メーカーカタログ値を利用	無し
ε BL	事業実施前、ボイラ効率	%	82.65	・メーカーカタログ値を利用	無し
CFfuel.BL	事業実施前、燃料の単位発熱量あたりのCO <sub>2</sub> 排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	0.0708	・デフォルト値を利用	無し
CFfuel.pj	事業実施後、燃料の単位発熱量あたりのCO <sub>2</sub> 排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	0.0517	・デフォルト値を利用	無し

※ 都市ガスのノルマル換算式

ガスの温度を摂氏 15 度、供給圧力を中圧供給であるため 0.98kPa とする。

V0 (摂氏 0 度、1 気圧換算)、V (検針値) とすれば、

$$\begin{aligned}
 V0 &= ((101.325+0.98) \times 273.15) / (101.325 \times (273.15+15)) \times V \\
 &= (27944.61075 / 29196.79875) \times V \\
 &\doteq 0.957 \times V
 \end{aligned}$$

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度 (2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)			
175,449.2 (N m <sup>3</sup> )	0.0440(GJ/N m <sup>3</sup> )	0.0517(tCO <sub>2</sub> / GJ)	399.1 (tCO <sub>2</sub> )
2014 年度～ (2014 年 4 月 1 日～2016 年 4 月 30 日)			
367,857.1 (N m <sup>3</sup> )	0.0464(GJ/N m <sup>3</sup> )	0.0517(tCO <sub>2</sub> / GJ)	882.4 (tCO <sub>2</sub> )
EM <sub>PJ</sub>			1,281.5 (tCO <sub>2</sub> )

### 6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
25,913.0 (GJ)		0.0708(tCO <sub>2</sub> /GJ)	1,834.6 (tCO <sub>2</sub> )
EM <sub>BL</sub>			1,834.6 (tCO <sub>2</sub> )

### 6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0 (tCO <sub>2</sub> )

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	削減量
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	1,834.6 (tCO <sub>2</sub> )
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	1,281.5 (tCO <sub>2</sub> )
リークージ排出量 (7.3)	LE	0 (tCO <sub>2</sub> )
温室効果ガス排出削減量	ER	553 (tCO <sub>2</sub> )

## 7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

原油換算 (kl)		
ベースライン ①	実績 ②	ベースライン- 実績 ①-②
668.6	630.8	37.8

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。 省エネ量 = 668.6 (kl) - 630.8 (kl) = 37.8 (kl)

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ~ 2016年4月30日)			
		エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位	(実績)	(実績)	(実績)